

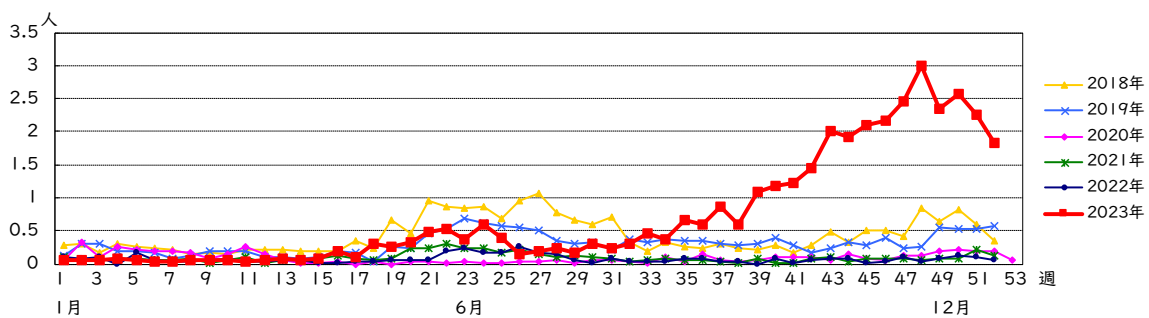
咽頭結膜熱が流行しています

2023年第52週(12月25日~12月31日)の定点あたりの患者報告数^{※1}は、横浜市全体で **1.82** となり、流行警報が発令中^{※2}です。

直近5週間の報告患者の年齢構成は、4歳17.1%が最も多く、0~5歳までで全体の70.1%を占めています。

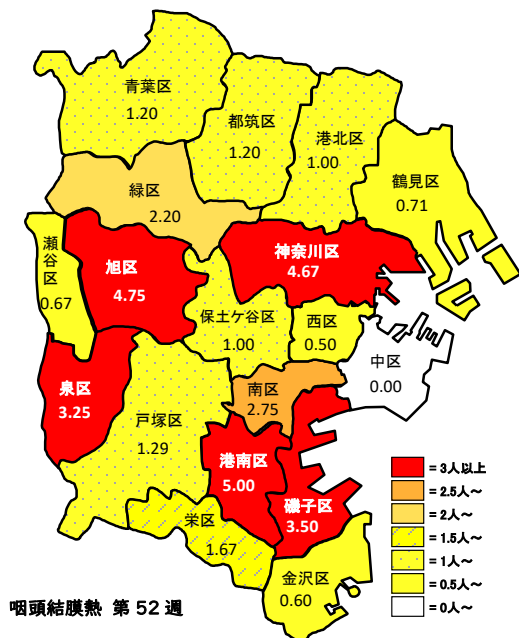
※1 定点あたりの患者報告数とは、毎週定期的に咽頭結膜熱の患者発生状況を報告していただく小児科定点医療機関(市内94か所)からの患者報告数の平均値(1医療機関当たりの報告数の平均値)です。ほかの地域や全国レベルで流行状況を比較する場合などに有効です。

※2 警報は、終息基準値(咽頭結膜熱では1.00)を下回った場合に解除となります。



【市内流行状況】

市全体の定点あたりの患者報告数は、第39週以降増加が続き、第48週(3.00)に流行警報発令基準値(定点あたり3.00)となりました。第52週は1.82です。



咽頭結膜熱とは

アデノウイルスによる感染症で、発熱、咽頭痛、結膜炎などの主な症状が3~5日程度続きます。治療は対症療法が中心ですが、結膜炎の強い場合は眼科での治療が必要になります。

感染経路は接触感染、飛沫感染ですので、感染者との密接な接触を避けましょう。アデノウイルスはアルコール消毒が効きにくいので、石けんと流水でのこまめな手洗いが重要です。

登校(園)基準 (学校保健安全法における取り扱い)

発熱、咽頭痛、結膜炎などの主要症状が消退した後2日を経過するまで出席停止とされています。

※参考リンク [咽頭結膜熱について | 厚生労働省](#)

今後は流行状況に応じて、不定期で発行いたします。毎週の流行状況は、[横浜市感染症情報センターウェブページ](#)に掲載している「最新の感染症発生状況(横浜市内)」の「週報」の「定点情報」をご参照ください。

【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237
横浜市医療局健康安全課 TEL 045(671)2463